
認定特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク 評価事業報告書 2021

2022 年 6 月

トリトンアーツ評価委員会

2021 年度、新型コロナウイルス感染症とともに生きる 2 年目の生活を、世界の多くの人々が痛みとともに過ごしました。そしてこの感染症は、前年度にひきつづき、音楽演奏が中心にあるトリトン・アーツ・ネットワーク（トリトンアーツ）の活動をさまざまなかたちで制約してきました。公演によって感染が生じないような対策が必要になり、また入国制限によって海外からの演奏者の出演が困難になりました。

この年度につぎに起きたのは、ロシアによるウクライナ侵攻です。それは遠い国の出来事にとどまらず、世界規模で見れば、音楽界にもさまざまな軋轢を引き起こし、またロシア以外の旧ソ連の、あるいは東欧諸国の音楽家の長年の苦しみもあぶり出しています。そして年度末押し迫って起きたのは大規模な地震です。春休み、東北での大きな揺れとそれによる犠牲者は、11 年前の絶望を記憶している多くの人々にそのことを思い出させました。

疫病、戦争、そして自然災害。夏季オリンピック・パラリンピックが半世紀ぶりに東京でようやく開催され、またトリトンアーツが記念すべき 20 周年を迎えた本年度は、かくも困難と不安に満ちた 1 年でした。

そのようなときこそ音楽が必要だということ、そして音楽が日常から離れて別世界を作り出すことをすでに知っている人は、ホールに行けばそれが体験できることもわかっておられ、困難ななかでもしだいにコンサートホールに向かい始めました。しかしトリトンアーツの活動のユニークな点は、そのような方々だけでなく、そのような未知の音世界との出会いを体験していない子供たちに（、そして現在は活動を中止しているものの病のためにホールに出向けない人のために）、その機会を用意しつづけていることにあります。いままで聴いたことのないこの響きは、なんだろう？ 「クラシック音楽」に聴き馴染んだ人のまえて指揮者なしで演奏される交響曲も、日頃生演奏に接する機会のない子供たちのまえて繰り広げられる打楽器アンサンブルも、それまで聴き手が知らなかった音の世界です。こうして、「未知の魅力的な世界が日々の（厳しい）生活の外にある」ということがわかっている人、自分とは異なる文化のなかで生きる人々のことが想像できる人を、少しずつ増やすことが、他者との接触が制限されたうえに先行きの見えない生活を続ける 2022 年の世界における、文化の、芸術の、音楽のたいせつな貢献です。

以下は、そのような社会貢献のための組織としてのトリトンアーツに関する、トリトンアーツによる自己評価、そして当期評価委員会の 2 年度目の報告です。

2022 年 5 月

トリトン・アーツ・ネットワーク 第 7 期評価委員長

小岩信治

第Ⅰ部 トリトンアーツ事業への評価について

2021年度はトリトンアーツ評価委員会の第7期第2年度にあたり、2022年4月から5月にかけて遠隔会議システムを使って実施した2回の評価委員会を中心にして、トリトンアーツの上記年度の活動を評価しました。

認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク第7期評価委員会

1. 委員会メンバー

委員長 小岩 信治（一橋大学大学院言語社会研究科 教授）
委員 大塚 真実（三鷹市スポーツと文化財団芸術文化課 主任・音楽企画員）
委員 佐藤華名子（企業メセナ協議会）
委員 佐藤 良子（芸術文化観光専門職大学 研究支援コーディネーター）
オブザーバー 的場 康子（第一生命経済研究所）
オブザーバー 露木 智子（第一生命コーポレートコミュニケーション部社会貢献推進課）
事務局 武田 有里（一橋大学大学院言語社会研究科博士課程）

2. 2021年度評価委員会開催記録

第1回 2022年4月29日（金） 10:00～12:00
第2回 同年5月13日（金） 10:00～12:00
いずれも遠隔会議システム zoom を使って開催

3. 第7期評価活動（第2年次）概要

第2年次の評価は、トリトンアーツから提出された事業データ（主催・共催公演一覧、コミュニティ活動一覧、決算書）、そして当該年度に各委員が視察した公演・活動に対する所見にもとづき、上記2回の委員会、および必要に応じて行われた電子メールでの意見交換を経て、とりまとめました。

第1回委員会ではトリトンアーツからの当該年度の事業について報告を受けたのち、前年に策定した評価区分および評価項目について、年度ごとに評価委員会で課題を定めるとした（年度・個別）「目標項目」を含めたすべての評価区分・項目を、2020年度のものと同様とすることを決定しました。（年度・個別）「目標項目」のなかにコロナウイルス感染症への対応と関連するものがあり、それが前年度同様引き続き求められている状況に変化がない、という事情を考慮した措置です。第2回委員会では、委員が各評価項目に対する評価を持ち寄り、トリトンアーツに対して必要に応じて事実関係の確認を求め、委員会としての評価をとりまとめました。以下に示す報告Ⅱの2の部分は、第2回委員会での検討結果を、後日に委員の確認を経て確定したものです。

なお第1年次に委員であった新治満・中央区文化・国際交流振興協会事務局長は、本務との両立が困難になったために退任しました。委員会としては前例および規定などを確認したうえ、委員が当初より1名少ない状態でも評価活動が可能であると判断し、上記の委員構成で2021年度の評価を実施しました。

第Ⅱ部 2021 年度活動評価

1. トリトンアーツによる評価

2021 年度も、4 月から 9 月までの半年間が、ほぼ延長に次ぐ延長の「緊急事態宣言」（一部「まん延防止等重点措置」）の最中となった。（緊急事態宣言の中、東京オリンピックが開催されている。）ホール公演は、東京都が「無観客」や「中止」を要請した期間には重ならなかったものの、客席収容率は 50% に制限された。ただし 2020 年度と違い、販売済みのチケットは払い戻す必要はないという政府からの通達により、再配席や払戻しの混乱はなくなった。それでもその都度、ウェブサイトの文言修正などのお客様への案内、収容率 50% を超えた公演のチケット売り止めなど、様々な対応に迫られた。一方で、渡航制限のため海外アーティストによる公演は中止、また演奏家がコロナウイルスに感染したり濃厚接触者となるなど、ホール公演、コミュニティ活動ともにコロナ禍の影響があり、公演実施回数は 2020 年度より増加したが、未だ 2019 年度並みには回復していない。

2020 年度の経験から、芸術は人が人らしく豊かに生きるために必須の（時には不急ではあっても決して不要ではない）ものだという確信があり、ビジョン「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会」を共有し、スタッフ一同、こんな時だからこそいかに音楽をお届けできるか考え行動した。一方で、活動をより理解していただくため、約 3 分の活動紹介動画を初めて作成して発信するとともに、寄付を呼び掛けるチラシや、ウェブサイト上から決済して手軽に寄付いただける仕組みを作った。

ホール公演事業

当初計画では主催共催公演合わせて 28 公演予定であったが、実施は 20 公演（うち主催 17 公演、共催 3 公演）、中止 6 公演（うち、海外アーティスト 5 公演、共催 1 公演）、延期 2 公演（主催公演）となった。

ハイライトは 11 月の「トリトン晴れた海のオーケストラ（晴れオケ）」の「第九」。当初 2020 年 6 月に予定していたが、コロナ禍による延期を経て実施したことで、よりベートーヴェンの「すべての人間は兄弟になる」というメッセージが力強く私たちに伝わる公演となった。当公演は「音楽の友」誌 2 月号の「コンサートベストテン」で、ベートーヴェン研究の第一人者平野昭氏より「《第九》の真髄に迫った圧倒的な名演」と第 1 位に選ばれた。またドキュメンタリー番組と「第九」演奏全編が NHK の BS 4K、BS プレミアム、E テレで放送され大きな反響を呼んだ。あわせて、ライブ録音 CD がキングレコードからリリースされ「レコード芸術」誌で特選盤に選ばれるなど、高い評価を受けた。コロナ禍の中での公演実施であったが、遵守している「クラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」の改定により、最前列からのチケット販売が可能となったことで、より多くのお客様に聴いていただくことができた。ただ、舞台上にアクリル板を設置し、東京混声合唱団はオリジナルの合唱マスクを着用するなどの制限があった。

「子どもといっしょにクラシック」シリーズは、ホール近隣の中央区、江東区在住の方の購入割合がさらに増加、早くに完売するなど好調だった。「ロビーでよちよちコンサート」は、2020 年度はお客様同士のディスタンスを保つために 0 歳児だけを対象にして実施したが、2021 年度は対象年齢を広げ「0-1 歳児と妊婦さんのためのコンサート」とし、全ての回が完売となった。また 4 歳以上対象としている、ホールでの年 3 回の公演もいずれも完売となった（うち、1 回は関係者のコロナ感染のために 2022 年度に延期）。

一方で、平日の昼に来場しやすい近隣のシニア層を主なターゲットとする「昼の音楽さんぽ」は、コロ

ナ禍で外出を控える方が多く、また上半期は緊急事態宣言なども重なり集客に苦勞した。ただ内容としては、ホール音響に適したアンサンブル（サックス四重奏、木管五重奏、フォルテピアノ・デュオ、弦楽四重奏）を紹介することができ、また文化庁の「ARTS for the future!」にも採択された。仕事帰りの近隣オフィスワーカーを対象とする「645コンサート」も、リモートワークなどの浸透で近隣企業からの集客が困難となったため、2022年度はこの2つのシリーズを統合して、新シリーズ「ごほうびクラシック」を立ち上げることにした。

ウェールズ弦楽四重奏団の2月公演は東京都の「アートにエールを！」に採択され、動画を配信した。「室内楽ホール de オペラ」は2年前にコロナ禍で延期となった「林美智子の『ドン・ジョヴァンニ』！」を上演することができ、第一生命ホールならではのモーツァルトのダ・ポンテ3部作が完結した。

オープンハウスは2年ぶりに有観客で実施することができたが、コロナ禍で以前のように出入り自由にはできないため、全席指定で1日2回各350名を無料で招待した結果、申込初日で定員満席となった。

コミュニティ事業

2021年度は34回実施（オープンハウスを入れると35回）できたが、一部の介護施設などで延期や中止となったところもあった。26回の実施にとどまった2020年度よりも回数は増加したが、コロナ禍前は毎年実施していた病院や介護施設、一部の小学校で実施できず、以前の年間40回までには回復していない。

コロナ対策として、トリトンアーツで策定しているアウトリーチ用のガイドラインを改定しながら、引き続き管楽器以外はマスクを着用して実施した。これまで継続してきた実績もあり、様々な受け入れ先がコロナ禍の中でもアウトリーチをどうやって実施できるか、私たちとともに考えて、実行してくださった。

小学校は、2020年度に4年生で実施できなかった学校には4・5年生対象として実施できるよう働きかけ、2校で、4年生と（2020年度行けなかった）5年生対象に実施した。「中央区発達支援センターゆりのき」でのアウトリーチは、2020年度は動画をDVDでお届けしたが、広い会場を用意していただき、対面で実施ができた。また、三菱地所株式会社とともに、小平特別支援学校高等部の生徒対象のアウトリーチを初めて実施した。

人材育成事業

若手演奏家がアウトリーチを学ぶ「アウトリーチセミナー」は例年どおりヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ1名ずつを募集、講師の松原勝也氏と弦楽四重奏を組んでオープンハウスでプログラムを発表、2学期以降は中央区内小学校3校で4・5年生対象にアウトリーチを行った。このセミナーを修了した演奏家たちの活躍の場としては、幼稚園や保育園でのアウトリーチの他、清瀬市教育委員会委託のレクチャー付きアウトリーチ形式のコンサート、東京文化会館主催の都内文化施設4館連携による新進アーティスト支援事業「アフタヌーンコンサート」など外部との協力企画もあった。またオープンハウスでは、セミナー修了生やこれまでに世話になった若手演奏家たちに声をかけて企画を募集し、公演を実施した。

サポーター（ボランティア）活動は、コロナ禍で限定的ではあったが徐々に再開し、69名の登録者のうち31名がなんらかの活動に参加（公演活動延べ46名、コミュニティ活動延べ36名）、サポーターとの絆の深さを再認識できた。また、予定していたホールでの研修は見送ったが、オンライン会議システムを使用してのサポーター交流会は2回開催した。オープンハウスのプロジェクトサポーター制度も復活、5名のサポーターがオンライン会議で運営について話し合い、事前にバックステージツアーの動画を作成するなど新たな試みを実施した。

インターンとしては昭和音楽大学から学生1名を受け入れ、公演、コミュニティ両活動を体験しても

らった。

NPO 組織運営体制

昨年度に引続き、コロナ禍の中での働き方改革について、在宅勤務・時差出勤等を継続して実施するとともに、オンライン会議システム等のコミュニケーションツールの活用及び、ペーパーレス化の推進により業務効率向上を図った。なお、監事による年 2 回の定例監査では、特段の指摘事項は無かった。

財政面では、昨年度に引き続きコロナ禍の中での公演が続いたため、客数の制限・公演の中止・延期などの影響を受けた。しかしながら、昨年度に比べると、チケットの売上高が増加に転じるとともに、助成金や補助金等の獲得もできた。また、費用についてはコスト削減を意識して取り組んだ結果、ほぼ昨年度並みとなったため、結果として年度当初は赤字予想であったものを覆して、単年度黒字となった。

2. 評価委員会による評価

2.1. 全体総括

2021 年に設立 20 周年を迎えたトリトンアーツの活動は、コロナウイルス感染症への対策に迫られながらも、これまでの実績を活かしつつ安定的に行われている……これが、当該年度に対する評価委員会の全体的な総括と言えます。

「トリトン晴れた海のオーケストラ」の 2015 年以来の活動が、ベートーヴェンの交響曲指揮者なし全曲演奏という壮大なプロジェクトの一環として、《第 9 交響曲》の演奏でこの記念年にそのクライマックスを迎えたことは、巡り合わせとしては偶然ではありましたが、長年の蓄積に基づくトリトンアーツの活動が大きな果実として可視化されたという点で、2021 年度の象徴的な出来事だったと言えるでしょう。

評価委員からは「晴れオケ」を含むホール公演事業を、明確な目的のもと、演奏者そして内容が選定されている点で高く評価する声が上がっています。公演事業とコミュニティ事業の連動もまた、困難のもとでもさまざまな工夫が重ねられて、この組織につらなるさまざまな人々に、多くの成果をもたらしています。また 2021 年度のよい変化として、Twitter など SNS を通じた発信が充実してきたことが特筆されます。

他方で評価委員が一致して懸念するのは、単年度黒字という大きな達成事項の陰で見えなくなりがちな、会員の減少です。これについては、全国的な知名度向上の契機を逃すことなく、関係者が知恵を出し合い、方策の実現に向けてアクションを起こすことが強く期待されます。

2.2. 各論

以下、トリトンアーツの 4 つの事業、および事業間連携、計 5 つの評価区分に沿って、また 2020 年度第 2 回評価委員会でもとめられた評価項目に従って、評価を報告します。各評価項目のうち下線付きのものは本評価期間 3 年度にわたって評価する基本項目、下線なしのものは年度ごとに設定・改訂する可能性のある目標項目を示しています。評価記号は第 6 期までのものを継承し、○：おおむね達成 △：一部未達成 ×：未達成 ?：判断保留 の 4 種とします。

2.2.1. ホール公演事業

① 公演シリーズ・公演ごとのねらい、目的に沿った企画・制作の実施とフォロー 【○】

各シリーズ・公演が明確な目的のもとに企画・運営され、それに適った演奏者や内容が選ばれています。またそうした目的や企画趣旨と来場者のニーズとの整合性をスタッフが冷静に捉えることができています。また、他の音楽ホールとの連携も注目に値します。

② 公演別集客目標・チケット売上目標達成 【○】

新型コロナウイルス感染症の影響がまだ見られるなかでも、入場者数が戻ってきている様子が数字から窺えますが、残念ながら目標達成の叶わなかった事業もあります。また公演別にみると集客は入場率にばらつきがあり、平均で 65.8%（共催なしだと 70.7%）となっています。ただし、コロナ前と後でライフスタイルが大きく変わったなかでの集客数と考えると、全体として健闘していると言え、また目標の数値を達成できなかったものについて、その理由と今後の戦略を検討できていると言えます。

③ ホール公演事業ラインナップ全体とビジョン、ミッションとの整合性 【○】

「トリトン晴れた海のオーケストラ」の活動に象徴的に示されているように、トリトンアーツの活動は中央区にとどまらず全国に知られるようになり、ひるがえって地元中央区民のシビックプライドの醸成にも繋がっている可能性が見て取れます。また文化庁の「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）に採択されていることから、今後も全国のモデルケースのひとつとなっ

ていくことが期待されます。ビジョン、ミッションを念頭に、ホールの特性や地の利、そして時流も考慮したラインナップであると評価できます。なお「昼の音楽さんぽ」「645 コンサート」が苦戦していますが、22 年度に向けて対応策が講じられています。

2.2.2. コミュニティ事業

① アウトリーチのねらい、目的に沿った確実な実施とフォロー 【○】

引き続きコロナ禍で様々な調整が必要であったなかでも、2020 年度の経験の蓄積を活かしつつ、法人の使命として確実に実施しています。

② アウトリーチをはじめとするコミュニティ事業の実施場所・内容を含めた再検証 【○】

これは、コロナ禍という特殊状況のもとでは評価しにくい項目ですが、評価委員会としては、20 年度に実施できなかった学年を対象とする小学校向けアウトリーチ活動のために予算を配分するなど、2022 年度を含めて対応中であることを確認し、中期的な検証が困難ななかで 20 年度事業を検証しながら活動内容を決定してきたことを評価します。特別支援学校、区外の学校を含む活動の成果として、「生の音楽に触れて心が動く経験」がいかに子供たちにインパクトを与えたか、について、児童向けアンケートから見て取ることができます。今後、児童・生徒向けアンケート、教員向けアンケートの改訂など、中期的な計画のための再検証は望まれます。

③ コミュニティ事業への組織的なバックアップ体制 【○】

複数名体制で着実に実施されています。また発信側のトリトン、演奏家と受け手側（会場）とが連携できていることが窺われます。今後も継続できるよう、負担が偏りすぎないように分担するとともに、スタッフ育成の面でもひきつづき複数名が関わることを望まれます。

④ アウトリーチ活動の効果に関するフォローアップ 【△】

中央区をはじめとする地域コミュニティに貢献していると考えられますが、①地域の課題に対してトリトンアーツのアウトリーチ活動が貢献していることを十分に説明できているか、②派遣するアーティストの選定方法は今後も継続可能なものか、などについて、アウトリーチ活動を効果的なものとして継続するために検討することが望まれます。なお活動実施後のアンケートを 22 年度に見直す計画であることを把握しています。

2.2.3. 人材育成事業

① アウトリーチセミナーでの受講生公募、集中セミナーの実施 【○】

これまでの実績をもとに、適切に立案・実施されています。

② アートマネジメント専門人材の育成と、育成機関としての役割向上 【○】

長年にわたってインターンシップの学生を受け入れています。若手人材を育てていることをより一層アピールすることが望まれます（トリトンアーツとしての SNS の活用については 2.2.5③）。ただし、実習した学生の追跡調査（そもそも実習後の学生と連絡を取り続けること）が容易でないことは理解できます。また受入人数の多寡によってこの点の評価が可能になるわけではありません。

③ アウトリーチで活躍できる若手演奏家の中長期的な育成及び活動支援 【○】

トリトンアーツの活動は、演奏家にとって、さまざまなアウトリーチ先に派遣されるとともにホール事業での出演もあり、若手演奏家に対して育成・活動支援の充実した機会を提供できています。

2.2.4. NPO 組織運営体制

① コンプライアンス、情報資産保護の徹底 【○】

情報資産保護についての問題は託児の締切日の誤記載が 1 件あったのみとのことで、日頃からの運営

の徹底が窺えます。

② 働き方改革、業務の見直しによる生産性向上 【○】

組織全体の労働時間が減少していることは確かめられました。ただし個別には増加しているスタッフもいるとのことで、特定の人に業務が集中し、労働時間が突出して増えることが続かないように、配慮することが望めます。

③ 継続的な財政基盤の充実による単年度黒字達成 【○】

適切な運営のもとで黒字が達成されているうえ、コロナ禍の悪条件のもとで、チケット収入の前年比1000万円増と補助金増を達成している点で高く評価されます。ただし継続的な財政基盤の充実という点では懸念を別途記します（→2.2.5④）。

④ 評価委員会との連携 【○】

視察対象となり得る公演の情報を適切なタイミングで評価委員に共有するなど、連携は図られています。また昨年度の評価報告を活用している様子も確認されます。

⑤ スタッフの人材育成 明確な具体的目標の設定 【○】

対象年度においてトリトンアーツとして明確な具体的目標は設定できていませんが、代わって、個人目標として期始の面談でスタッフがそれぞれ目標を設定し、期末の面談時に達成度合いを振り返っており、可能な範囲で人材育成の目標明確化のために努力していることが評価できます。

⑥ 事務局のリモートワーク実施状況及びその点での事業実施への影響回避 【○】

リモートワークは継続的に行われており、それを理由とする事業への影響はないと判断します。

2.2.5. 事業間の連携

① アウトリーチセミナー・若手演奏家支援充実による事業間連携の推進 【○】

トリトンアーツの特徴的な事業を活かし、アウトリーチ、セミナー、公演と様々な出演機会が提供されています。主催者だけでなく来場者とともに若手音楽家を育てていこうという思いが強く感じられます。

② 事業間連携としての オープンハウスによる、ホール周辺在住、在勤者はじめ、だれもが気軽に音楽を楽しむ機会の提供 【○】

2021年度はコロナ対策に配慮しつつ対面で実施され、多数の来場者（申し込み受け付け開始後すぐに予定人数に到達）には地域からの根強いニーズが示されていると考えます。さらに、アウトリーチ活動に出演したアーティストたちが参加し、事業間で連携することによって内容を充実させていると言えます。

③ 活動理解促進のためのホームページ、SNS等の運用のチェック 【○】

Twitter や Instagram、Facebook それぞれの特徴を活かしつつ、発売情報や主催事業関連のメディア情報をタイムリーに提供できています。専任のスタッフを配置していることも効果を上げている理由でしょう。Twitter のトップに固定された、多面的な活動を3分間にまとめた紹介動画は、トリトンアーツについて知るポータルとして効果的と言えます。

④ 魅力的な活動の周知による支援者の拡充（寄付・会員数の向上） 【△】

社会情勢の変化が激しいなかで、一概に努力不足とは言えませんが、寄付金目標を達成しているとはいえず会員数は漸減しており、中期的な会費収入減が見込まれるという根幹的な問題の存在は否めません。

「晴れオケ」による知名度拡大のチャンスを活かして新規会員獲得に向けたアクションを起こすこと、また改めてまず理事など身近な関係者・有力者に協力を依頼することなどが考えられます。

⑤ コロナ禍に鑑みた感染予防対策・活動の検証 【○】

クラスターの発生などの事故が生じることなく、事業が実施できています。演奏者や来場者、アウトリーチの受け入れ側や参加者が安心して臨めるように絶えず検証し、トリトンアーツ組織内を含めて工夫を凝らしていることが、拝見した事業からもはっきりと見て取れました。

資料編

1. 第一生命グループとの関係およびトリトンアーツ組織図

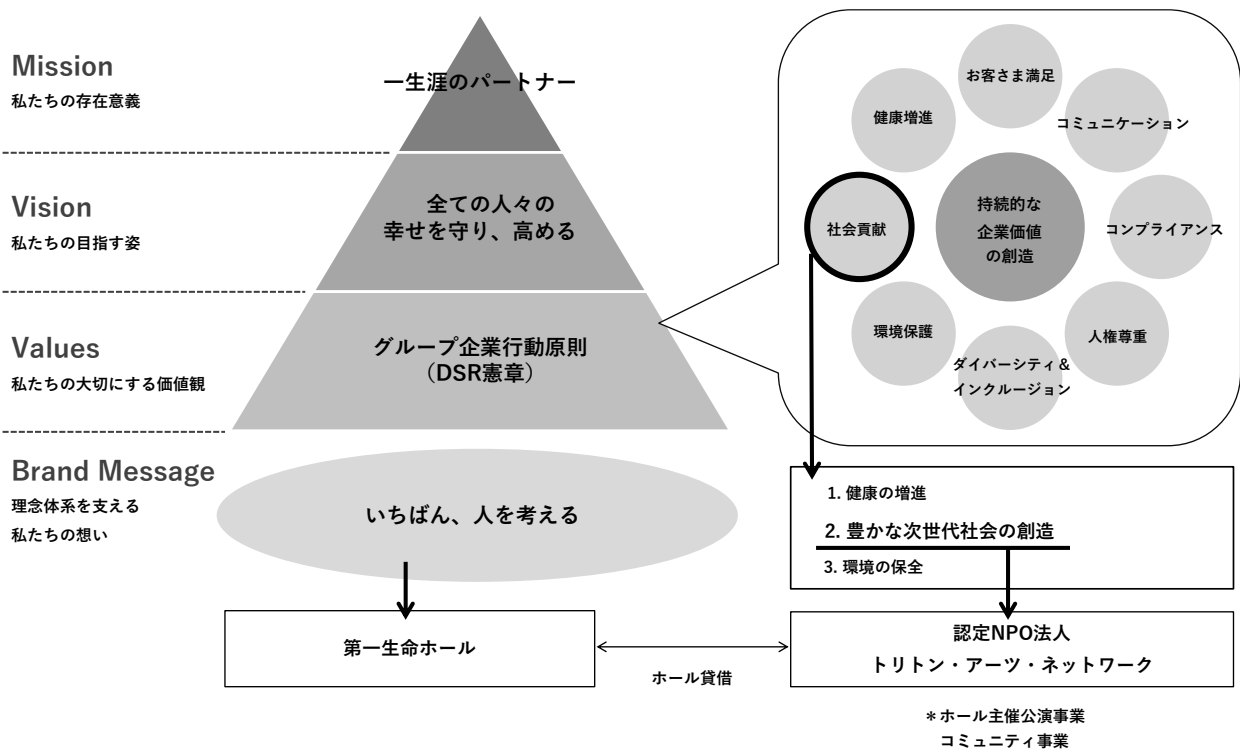


図 1-1. 第一生命グループとの関係

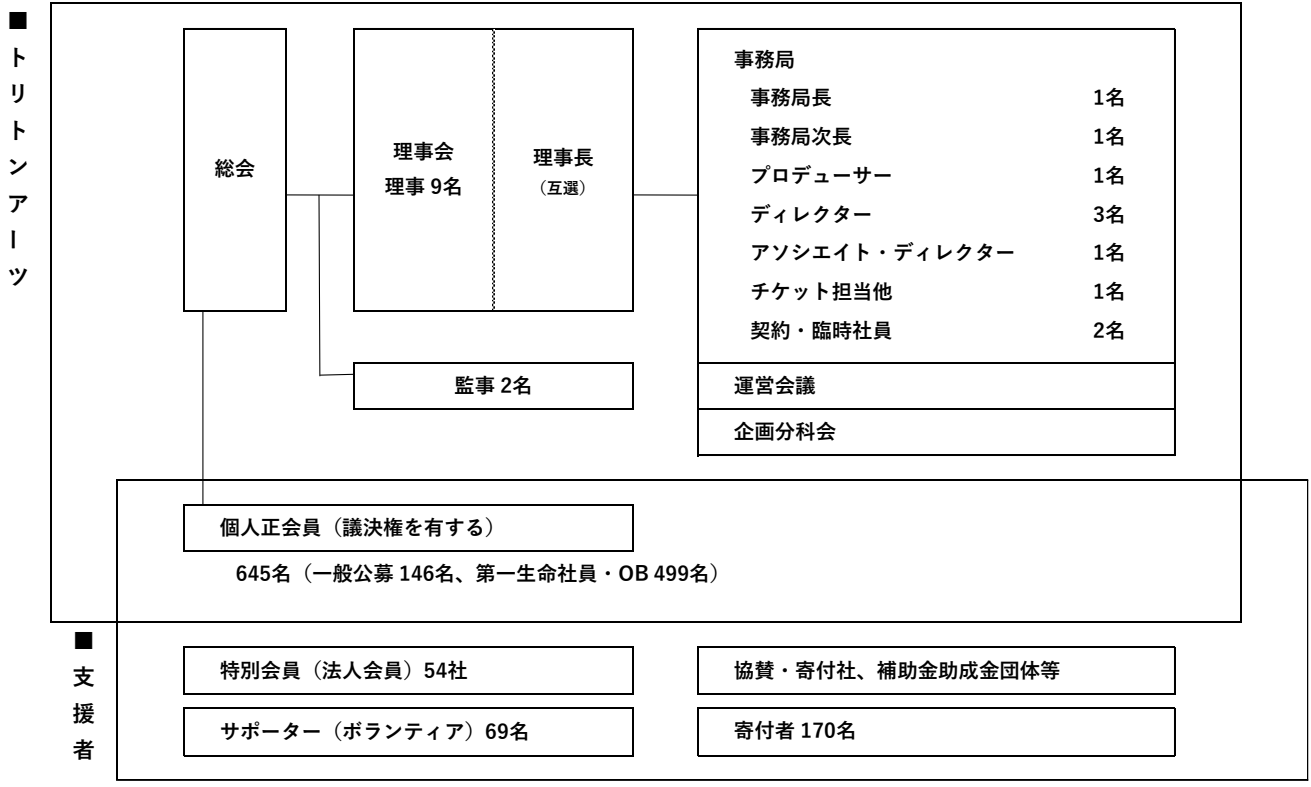


図 1-2. 組織図（数字は 2022 年 4 月現在）

2. ホール公演事業

公演入場料収入・入場者数

表 2-1. 公演入場料収入、主催・共催公演入場者数

公演入場料収入 (単位：千円)	6,850	4,883	7,565	9,594	9,721	9,091	13,188	21,856	20,479	20,909
年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
主催・共催公演入場者数（招待含む） (単位：人)	11,641	11,201	9,125	10,035	12,074	9,592	9,837	14,501	11,501	12,513

公演入場料収入 (単位：千円)	23,372	18,322	24,350	25,164	25,260	25,102	26,453	24,910	13,470	24,072
年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
主催・共催公演入場者数（招待含む） (単位：人)	11,403	10,094	13,174	14,721	13,083	14,727	14,818	13,217	5,477	7,662

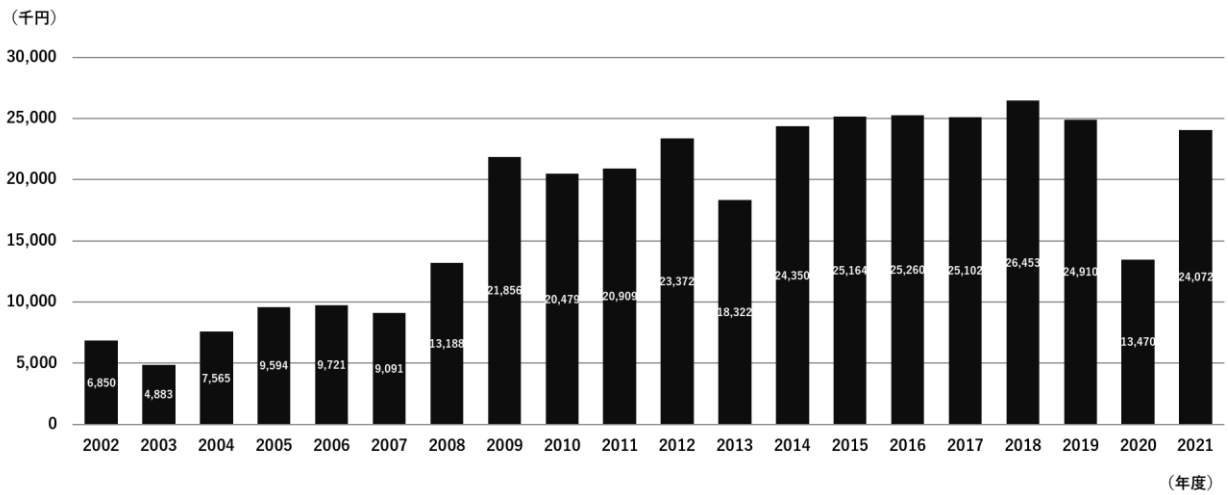


図 2-1. 公演入場料収入推移

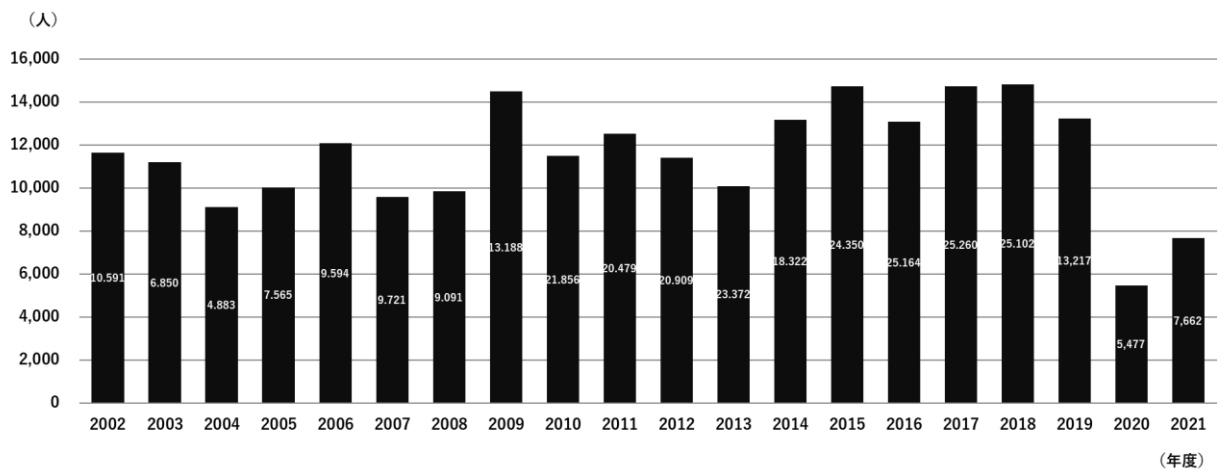


図 2-2. 主催・共催公演入場者数推移

3. コミュニティ事業

事業実施状況

表 3-1. アウトリーチ実施場所・実施回数

場所・回数	年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
小学校		16	12	16	15	12	13	12	13	12	16	16	19	18	17	19	20	14	17
回数		16	13	18	15	12	20	21	24	18	20	19	19	18	18	20	20	14	17
幼稚園等		10	7	4	3	5	2	3	4	4	5	4	6	6	6	6	6	6	6
回数		11	7	4	3	5	2	3	4	4	5	4	6	6	6	6	6	6	6
病院・介護施設		11	8	5	4	7	4	3	1	2	2	2	4	5	5	5	5	2	2
回数		15	8	8	4	7	4	3	1	2	2	2	4	5	5	5	6	2	2
その他		4	5	6	5	4	4	3	2	3	4	3	2	2	8	14	9	4	8
回数		5	5	6	5	4	4	3	2	3	4	3	2	2	8	14	9	4	10
実施場所数計		41	32	31	27	28	23	21	20	21	27	25	31	31	36	44	40	26	33
実施回数計		47	33	36	27	28	30	30	31	27	31	28	31	31	37	45	41	26	35
協力企画		14	6	2	2	2	2	4	7	4	3	3	2	2	6	5	2	0	0

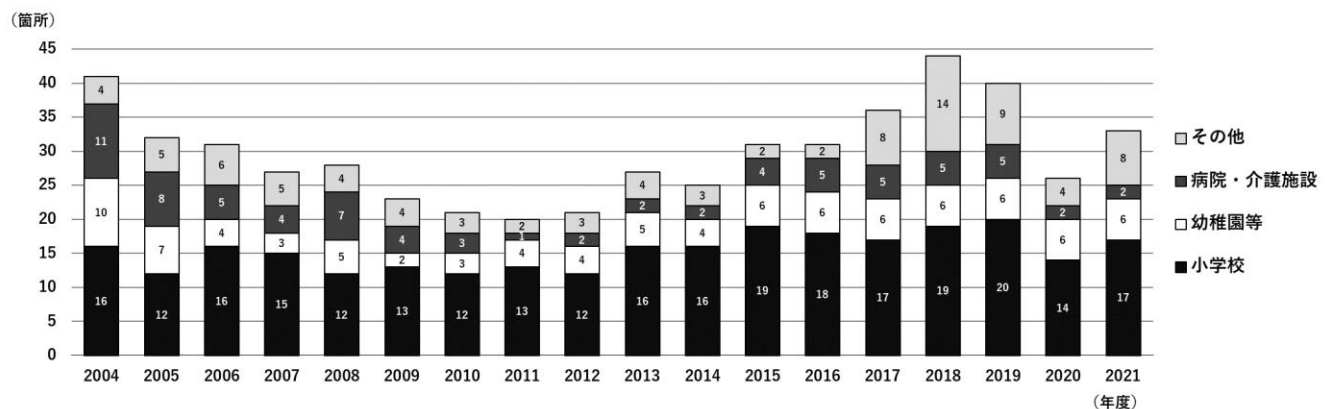


図 3-1. アウトリーチ実施場所推移

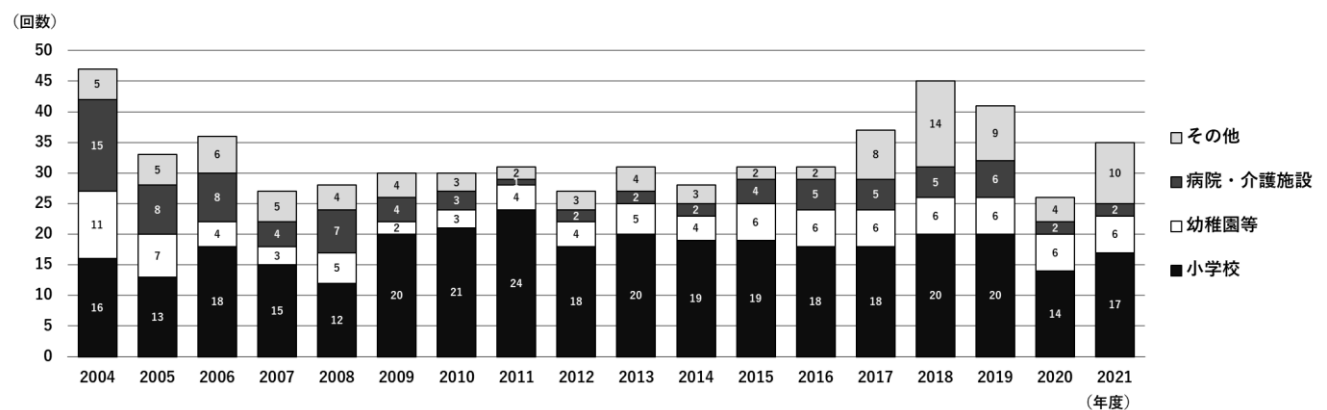


図 3-2. アウトリーチ実施回数推移

4. 人材育成事業

サポーター状況（2022年3月31日時点）

表・図 4-1. サポーター数概要

(単位：人)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
サポーター数	141	128	87	84	77	68	69	58	61	73	63	73	64	72	72	77	75	76	69
うち中央区民	37	27	18	19	20	17	23	20	20	24	21	24	22	17	21	20	16	19	20
実働数					35	60	62	58	61	73	63	61	52	58	70	63	60	4	31

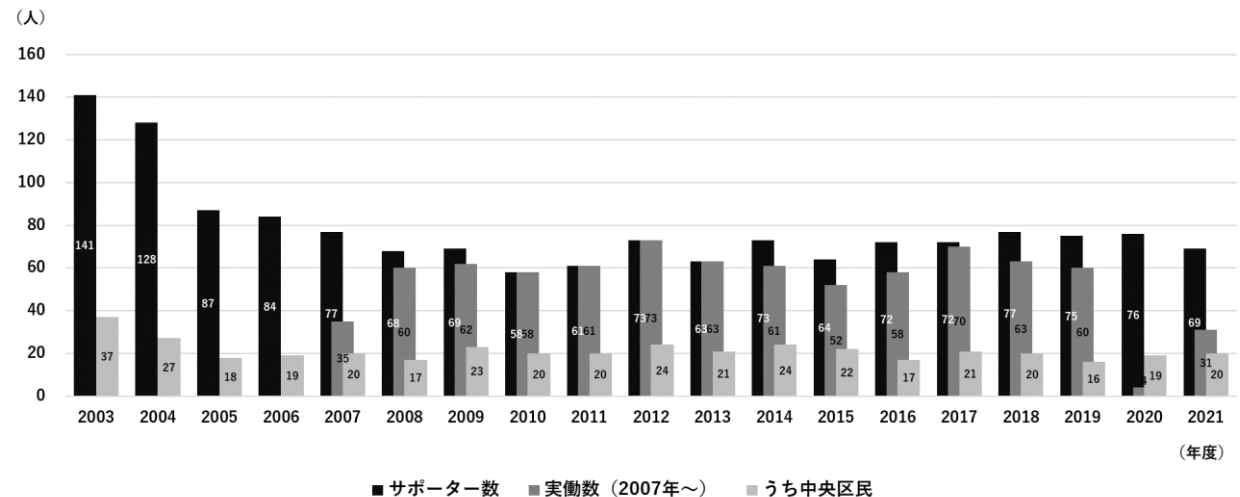
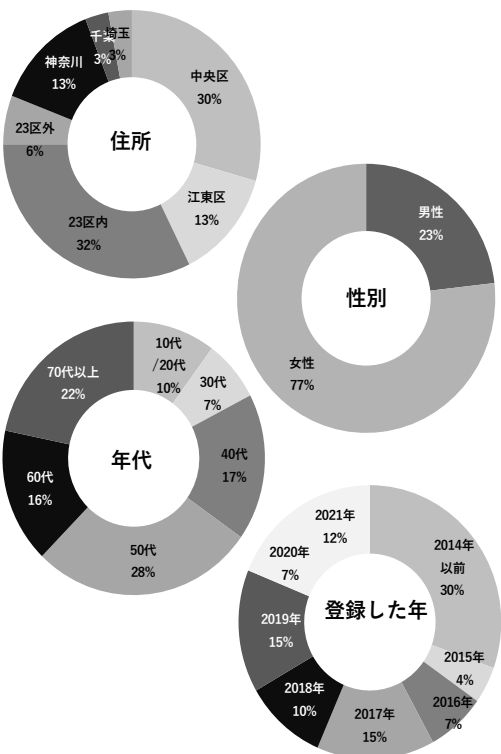


表 4-2. サポーター数推移・属性

(単位：人)

年度		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
サポーター数		61	73	63	73	64	72	72	77	75	76	69
住所	中央区	20	20	24	21	24	22	17	21	20	16	20
	中央区外	38	41	49	42	49						
	江東区						8	8	11	11	12	9
	23区内						16	21	20	26	23	22
	23区外						6	6	2	1	4	4
	神奈川						6	10	8	11	11	9
	千葉						3	7	5	4	4	2
	埼玉						2	1	3	3	4	2
	茨城						1	2	2	1	0	1
	静岡										1	0
性別	男性	16	15	20	19	19	13	18	15	15	17	16
	女性	42	46	53	44	54	51	54	57	62	58	53
年代	10代/20代						7	16	13	19	10	7
	30代						3	5	3	4	8	5
	40代						14	15	17	15	9	12
	50代						10	10	11	12	20	19
	60代						18	16	15	15	14	11
	70代以上						9	10	13	12	14	15
	不明						3					
登録した年	2014年以前						41	28	23	20	20	21
	2015年						14	11	8	7	5	3
	2016年						14	8	8	5	4	5
	2017年							25	17	12	7	10
	2018年								16	15	10	7
	2019年									18	11	10
	2020年										18	5
	2021年											8
新規登録	新規登録	17	25	9	20	13	25	16	18	18	5	8
退会状況	退会	14	13	19	10	22	17	16	13	20	4	15

図 4-2. 2021 年度サポーター属性



5. NPO ガバナンス

個人会員・特別会員（法人会員）・寄付等状況

表 5-1. 会員別年会費区分

個人正会員		1口 1万円
特別会員（法人会員）	エステルハージ・サークル会員	1口 10万円（5口以上）
	ラズモフスキー・サークル会員	1口 10万円（2口以上～4口以下）

表 5-2. 会員状況・助成先・協賛先推移

年度 分類		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	
個人会員 (単位：口)		851	836	827	790	747	710	765	723	683	650	657	671	745	736	733	716	682	645	
個人会費額 (単位：千円)		8,800	8,525	8,000	7,990	7,560	7,310	7,730	7,460	7,410	6,510	6,650	6,840	7,550	7,530	7,420	7,360	7,050	6,720	
個人会員 内訳 (単位：口)	第一生命	523	513	505	486	458	447	516	502	481	455	463	484	567	563	566	554	524	499	
	その他	328	323	322	304	289	263	249	221	202	195	194	187	178	173	167	162	158	146	
年度 分類		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	
法人会員 (単位：口)		24	32	33	31	30	41	45	44	44	43	44	44	45	46	52	53	55	54	
法人会費額 (単位：千円)		9,600	11,100	11,100	10,800	9,900	16,800	19,900	20,800	20,900	21,400	21,900	22,200	22,200	20,100	24,600	23,800	23,400	22,800	
助成件数 (単位：件)		8	6	10	8	4	7	6	9	4	3	2	2	3	3	5	3	4	4	
助成金額 (単位：千円)		6,050	6,100	12,200	11,018	6,034	10,795	6,649	14,262	10,048	9,148	9,103	7,515	5,670	8,560	10,560	9,879	11,655	12,012	
協賛・寄付社件数 (単位：件)		2	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
協賛・寄付金額 (単位：千円)		63,604	61,650	61,198	61,170	65,730	69,801	55,500	50,600	48,500	48,600	48,800	50,000	53,750	50,450	49,304	51,604	50,979	54,230	
個人寄付者 ※内諾者含む申込ベース (単位：名)											153	207	200	201	198	186	180	175	291	170
個人寄付金額 (単位：千円)											28	1,329	1,337	1,440	2,334	2,646	1,869	2,429	3,847	2,565

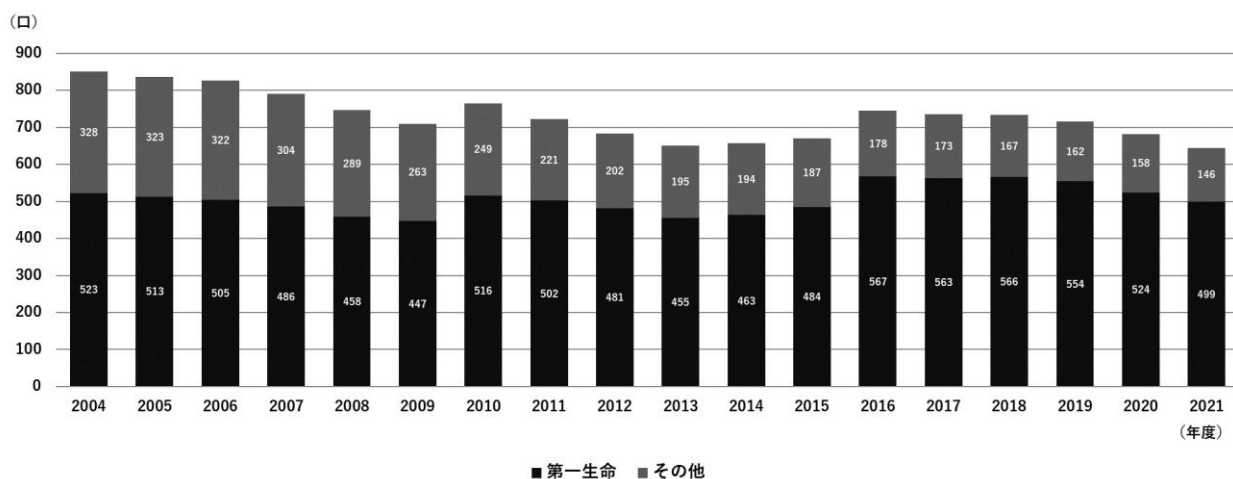


図 5-1. 個人会員数推移・内訳

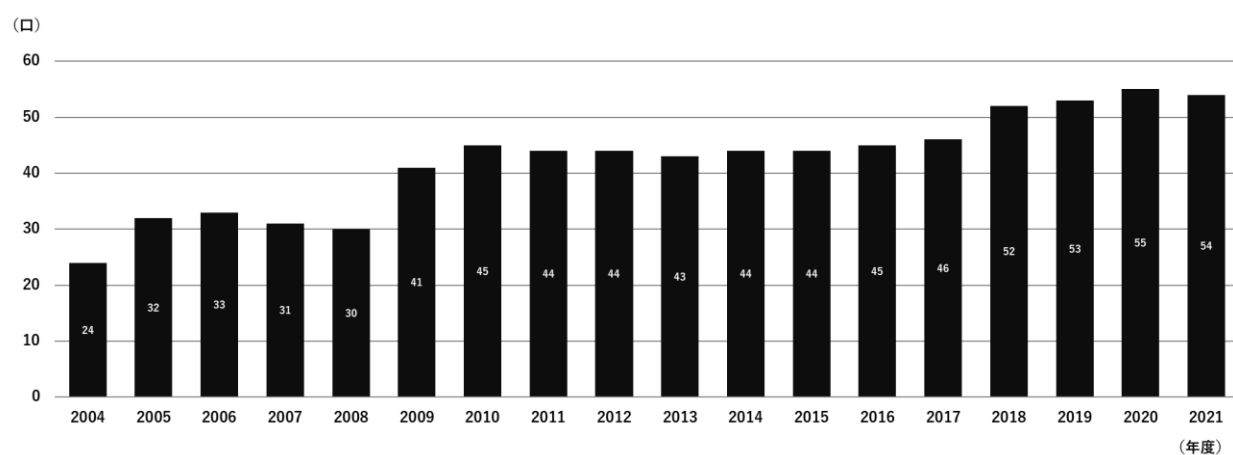


図 5-2. 法人会員数推移

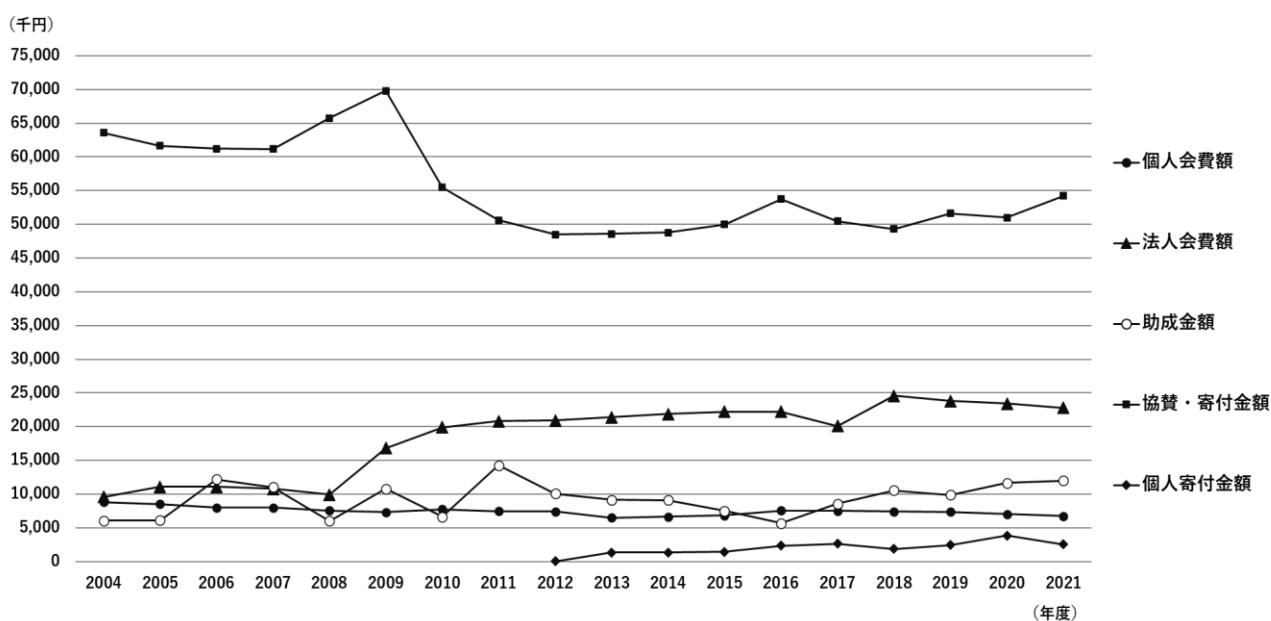


図 5-3. 会費・助成金・寄付金額推移

6. 2021 年度トリトンアーツ主催公演における顧客分析抜粋

◎ 本データは、主にトリトンアーツ主催公演のトリトンアーツ・チケットデスクでのチケット購入者を対象に集計を実施。各プレイガイドでの購入者は集計対象には含まれていない。
2021年度対象公演のシリーズ別一覧は右図のとおり。

◎ 集計方法

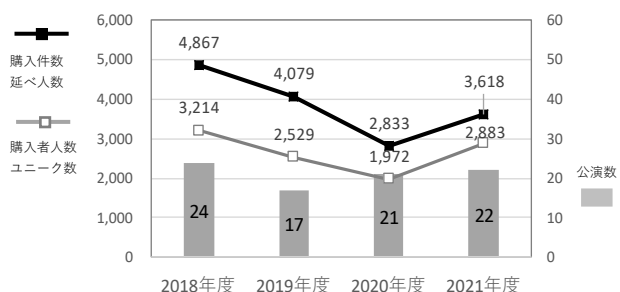
「購入公演数」⇒ 購入者人数（ユニーク数）で集計
その他 ⇒ 購入件数（延べ人数）で集計

◎ 「購入履歴無」の購入者＝初購入者

「購入履歴有」の購入者（2回目以降）＝リピーター と定義

◎ 顧客の性別・年齢はオンライン会員登録をしている顧客のみ集計（電話・来社予約等では性別・年齢情報は未確認。）

◎ 集計対象



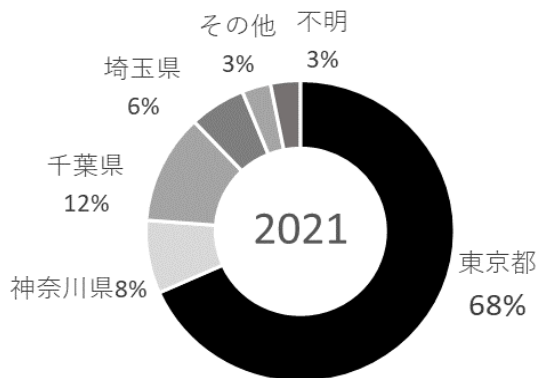
◎2021年度顧客分析対象公演

SQW 1公演		
1	2022/2/12 (土)	ウェールズ弦楽四重奏団〜ベートーヴェン・チクルスV
ウィークエンドコンサート 6公演		
1	6/5 (土)	トリトン晴れた海のオーケストラ 第9回演奏会
2	7/3 (土)	三浦一馬 東京グラッド・ソロイスト 第5回演奏会
3	11/27 (土)	トリトン晴れた海のオーケストラ 第10回演奏会
4	12/12 (土)	小山実稚恵の室内楽 小山実稚恵&アルティ弦楽四重奏団&池松宏
5	2022/3/19 (土)	室内楽ホールdeオペラ〜林美智子の「ドン・ジョヴァンニ」 1回目
6	2022/3/21 (月)	室内楽ホールdeオペラ〜林美智子の「ドン・ジョヴァンニ」 2回目
雄大と行く 星の音楽さんぽ 5公演		
1	5/14 (金)	第25回 ザ・レヴ・サクソフォン・クアルテット (サクソ四重奏)
2	8/25 (水)	第26回 アンサンブル・ミスト (木管五重奏)
3	9/9 (木)	第21回 牛田智大ピアノ・リサイタル
4	10/8 (金)	第27回 小倉貴久子&川口成彦フォルテピアノ・デュオ
5	12/8 (水)	第28回 クアルテット・エクセルシオ (弦楽四重奏)
645コンサート 1公演		
1	9/15 (水)	小南満佑子オペラ&ミュージカル
子どもといっしょにクラシック 3公演		
1	12/12 (日)	クリスマス・オーケストラ・コンサート(1回目)
2	12/12 (日)	クリスマス・オーケストラ・コンサート(2回目)
3	2021/3/13 (土)	音楽と絵本コンサート『5ひきのすてきなねずみ』
ロビーでよろこぶコンサート (0〜1歳児と妊婦さんのためのコンサート) 3公演 (計16回公演)		
1	6/22 (火) 23 (水)	第33回 0〜1歳児と妊婦さんのためのコンサート(5回公演)
2	10/18 (月) 19 (火)	第34回 0〜1歳児と妊婦さんのためのコンサート(5回公演)
3	2022/3/2 (水) 3 (木)	第35回 0〜1歳児と妊婦さんのためのコンサート(6回公演)

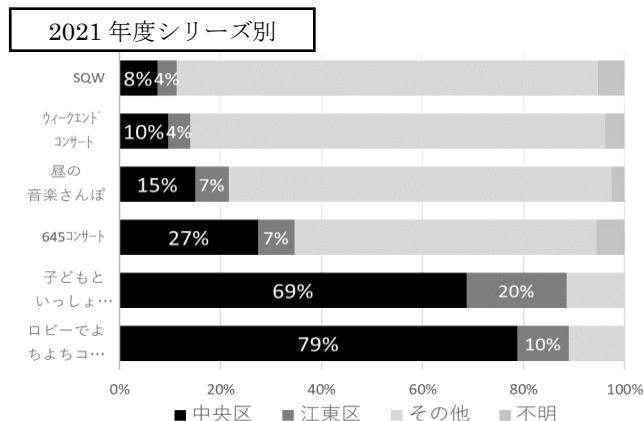
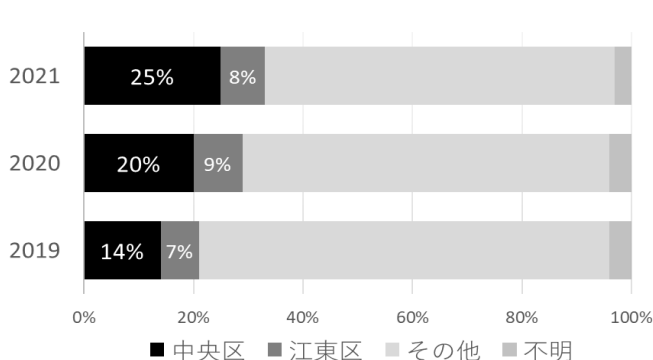
※1 0〜1歳児と妊婦さんのためのコンサートの6月・10月は各5公演、2022年3月は6回公演、クリスマス・オーケストラ・コンサート (2回公演)、ドン・ジョヴァンニ (2回公演) は2公演として集計

※2 共催公演(4月ヤングシンフォニー、8月東京混声合唱団、9月日本音楽集団)は集計対象外

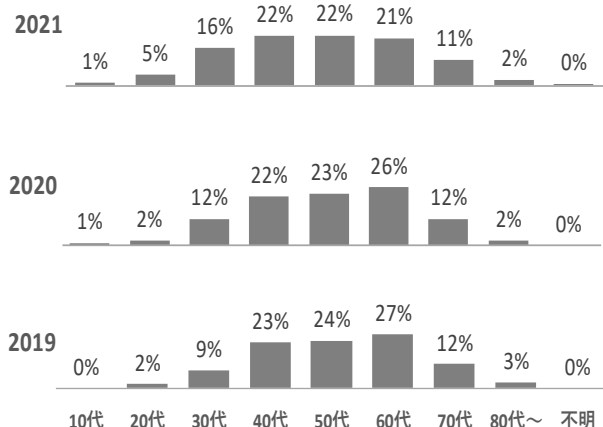
チケット購入者の居住地（オンライン予約&Tel・来社他）



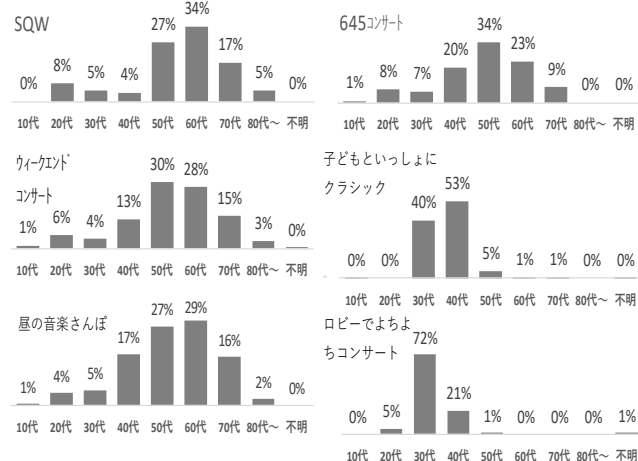
チケット購入者の居住地（中央区・江東区が占める割合）（オンライン予約&Tel・来社他）



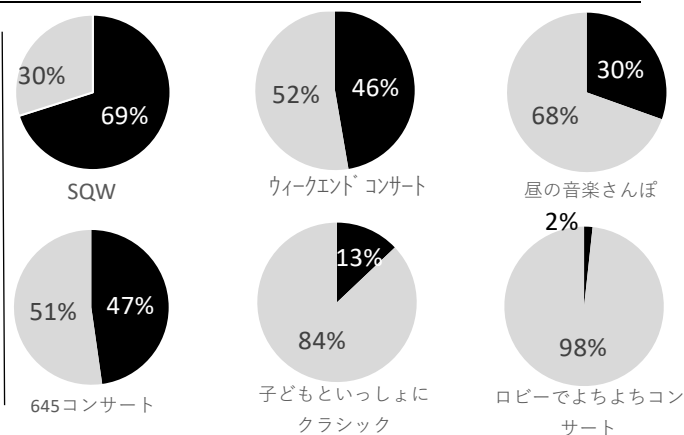
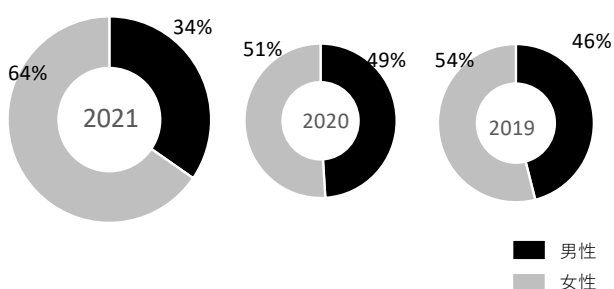
チケット購入者の年代（オンライン予約）



2021 年度シリーズ別

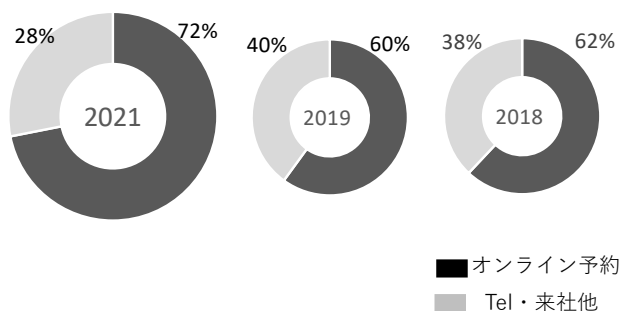


チケット購入者の男女比（オンライン予約）

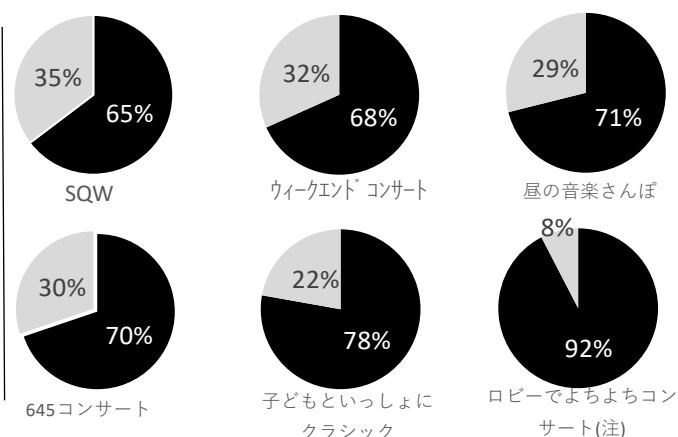


チケット購入方法（オンライン予約 & Tel・来社他）

※2020 年度は再配席処理の関係上データ取得不能

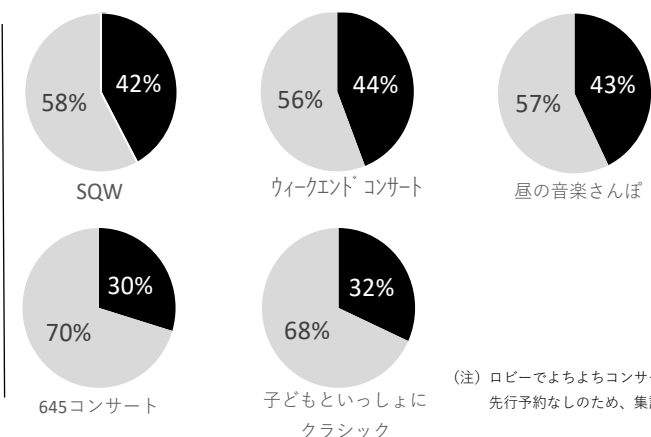
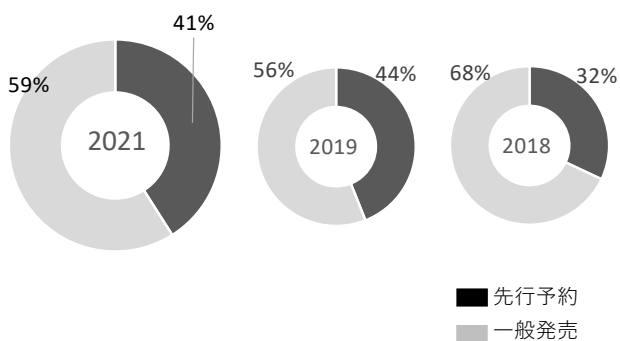


(注) ロビーでよちよちコンサートは基本的にオンライン予約のみのため、オンラインの割合が多い



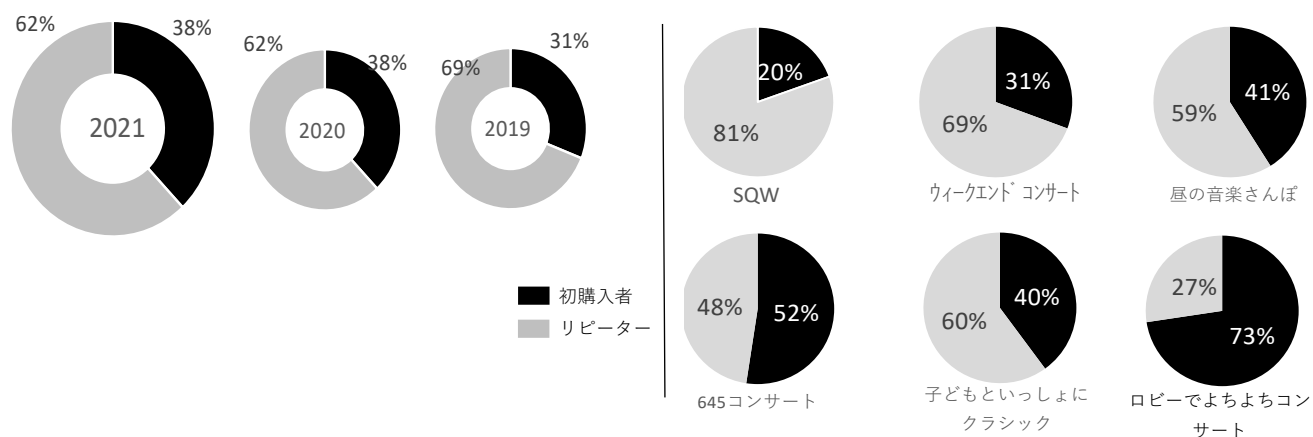
先行予約利用状況（オンライン予約 & Tel・来社他）

※2020 年度は再配席処理の関係上データ取得不能

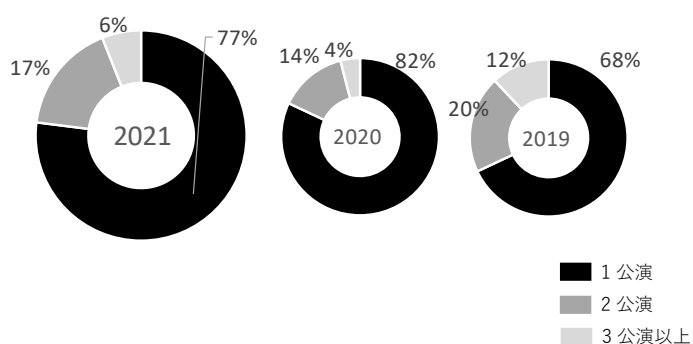


(注) ロビーでよちよちコンサートは先行予約なしのため、集計外

初購入者・リピーターの割合（オンライン予約&Tel・来社他）



購入公演数（オンライン予約&Tel・来社他）



（出典：トリトンアーツ事務局作成資料）

認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク 2021 年度評価事業報告書
認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク評価委員会編

発行 2022 年 6 月

認定特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク

〒104-6005 東京都中央区晴海 1-8-10

晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワー X 棟 5 階

TEL : 03-3532-5701 FAX : 03-3532-5703

URL : <https://www.triton-arts.net/>
